
魚の世界

やぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魚の世界

【Nコード】

N1168P

【作者名】

やぎ

【あらすじ】

魚ってやっぱり同じ種類の魚としかいけない気がする。

yagimokiさんは「夜の庭」で登場人物が「開く」「魚」という単語を使ったお話を考えて下さい <http://shindanmaker.com/28927> #rendai

僕は夜の散歩が好きだ。誰にも出会わないで外を闊歩出来る。そんな夜の世界で彼女に出会った。同じクラスの無口な彼女。彼女も夜の世界を謳歌していた。学校では見せない君の表情に心を奪われた。その為か、なぜか話しかけてしまった。学校では話すこと、いや目すら合わせたことがなかったのに。

そこから、夜の散歩の時は話はじめていた。だが、学校ではいつも通り目すら合わせない。だが、夜の散歩のときは話している。凄く奇妙な関係となっていた。

互いに互いの世界に干渉しない。互いの世界を全て開かない。それが最良の選択と思っていた。このまま、夜の出会いだけにしておくことがよい。そうすれば、何もかも諦めがつく。

いつも通り庭で他愛も無い話をしていた。互いに昼のことには一切触れずに、夜の二人だけの内容を共有していく。一瞬、体のバランスを崩して、彼女の方へと倒れかけた。いつもより近い距離。ダメだ、世界が崩れる。僕は直ぐに体勢を立て直し、いつもの距離にする。

「魚はね、」

彼女は急に話を変えた。少し頬を染めていた。僕は変にツツコミを入れず、そのことに耳を傾ける。

「魚は自分がいるべき世界を理解しているんだって。上昇しても潜っても窒息するから。だから、自分のいる世界から移動はしないでそのまま。……けどね、私は窒息してでも行きたい世界があるの」

君はどうなの？と問われた気がした。知ってるんだな。この子は。僕はここにいる。浮きもせず沈みもせずにいる。だが、いつかは僕も行きたい世界へと行ってみたい。

「僕はね、」

君がいる世界に泳いでいく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1168p/>

魚の世界

2010年12月2日02時14分発行